

令和5年度第1回大府市防災会議 議事録

日 時：令和6年1月26日（金）
10時00分～11時10分
場 所：大府市役所 全員協議会室

【 出席者 】（ ）内は代理者

会 長：岡村秀人市長

委 員：山内副市長、道官秀信：知多県民事務所長、神谷孝明：知多建設事務所長（小柳）、山崎千佳：知多保健所長、早川 元博：東海警察署長（前田）、間瀬恵：大府市総務部長、酒本博文：陸上自衛隊第10師団第35普通科連隊（宮田）、中倉謙二：大府市消防長、西脇香織：大府市消防団吉田分団、平見舞子：共和東自主防災会、小林暢一：中部電力パワーグリッド(株)緑営業所（物部）、横井康人：東邦ガス(株)東海営業所（美濃羽）、本多裕治：西日本電信電話株式会社東海支店（小澤）、酒井佳恵：知多メディアスネットワーク（株）、深谷多恵子：大府商工会議所、山本資恵：あいち知多農業協同組合大府支店、山口早苗：おおぶ防災ボランティア、池田美代子：日赤奉仕団、寺島恵：DAIWA 防災学習センター、

防災助言者：横田崇：愛知工業大学工学部土木工学科教授

本部員：新美光良：企画政策部長（太田）、向井太志：総務部参事、近藤真一：市民協働部長、猪飼健祐：福祉部長、中村浩：健康未来部長、伊藤宏和：都市整備部長、寺島晴彦：産業振興部長、近藤重基：水と緑の部長、白濱久：会計管理者、浅田岩男：教育部長、

事務局：近藤宏幸：危機管理課長、村瀬晋介：危機管理課防災危機管理係長、喜多村祥久：危機管理課防災危機管理係主任、森本祐一郎：危機管理課防災危機管理係主任、平田建：危機管理課防災危機管理係防災専門員、深谷一紀：水緑公園課長

欠席者：宮島年夫：大府市教育長、森下俊哉：大府市医師団、鈴置繁雄：議会事務局長

傍聴者：なし

議事

- 司会 危機管理課長
- 議長 会長

1 会長あいさつ

ご多忙のところ大府市防災会議にご出席いただき、感謝申し上げます。

1月1日に能登半島地震が発生し、多くの方が亡くなり、哀悼の意を表す。大規模災害時相互応援協定を締結している富山県小矢部市も被害があった。被害が甚大だった石川県に対し、愛知県が中心となって対策を講じ、1日には本市消防職員を救急消防援助隊として輪島市へ派遣し、現在は志賀町へ罹災証明発行の事務で税務課職員も派遣している。

また、募金についても日本赤十字社を中心に活動を行っており、市役所や公民館等に募金箱を設置し、多くの募金をいただいている。

南海トラフ巨大地震が発生した場合、この地域は能登半島地震以上の被害が出るのではないかと危惧しており、地震への対策を進めている。避難所となる小中学校体育館へのLPガスバルクと空調機の設置や、新たな福祉避難所として、愛三文化会館を改修し避難できるよう検討するとともに、防災情報の発信として防災情報アプリの導入も行っており、ぜひ活用してほしい。学校法人藤田学園藤田医科大学とも災害時の支援活動に関する協定を締結し、いざという時の人的支援をお願いしたいと思っている。

本日の議題には、地震や風水害対策について重要な計画となる地域防災計画、水防計画の見直しがあるため、ご審議の程お願いする。本日もご出席いただいた皆様との連携をより緊密にしていきたい。

2 報告事項

令和5年度防災事業報告について
事務局及び関係本部員による資料説明

【質疑など】

【委員】

近所に瓦が落ちそうな家があるが、どこの担当部署に言えばよいか。

【都市整備部長】

都市政策課で対応する。

【防災助言者】

取組の状況について、取組の結果、どういう状況になり、残る課題がどうかとわかる形で取りまとめるとともに、学校防災教育においても、教育の成果が見える形でまとめていただきたい。

【事務局】

資料について、成果や課題が見える形で整えていくことを検討する。

【委員】

能登半島地震の状況から、水の重要性を痛感している。被災して水が出ない場合において、井戸水提供の家等で水を汲むためのポリタンクが備蓄倉庫に配備しているか確認したい。

【水と緑の部長】

水道管については、重要な施設に連絡する管の耐震対策が終わっており、大地震が発生した際は、緊急遮断弁が降り、貯まった水を配布することができる。水を配布する訓練も行っており、市民の皆様のご家庭でも備蓄をしていただきながら、被害が最小限になるよう今後とも取り組んでいく。

【事務局】

公民館に設置している防災倉庫にポリタンク等の備蓄があるため、活用いただきたい。

【産業振興部長】

愛知用水が、飲用、工業に使われているが、耐震性が足りず、耐震化を国に陳情している。

【防災助言者】

過去に整備してきた水道等の設備が、耐震性が脆弱であることが見えてきており、耐震化を進めているが、十分に進んでいるとはいえない。その一方で備蓄等の貯蓄型の対応はすぐにできるが、備蓄した物品を使用した訓練をしてきていないと思われるため、訓練で時々使うようにしないと、いざという時に使えないので、災害時の水道施設、水の利用方法を日常の中にも使えるように訓練していくと良い。

3 協議事項

(1) 大府市地域防災計画の修正について

事務局による資料説明

【質疑など】

なし

【会長】

本件について、ご承認にご異議無いようなので、協議事項(1)については、ご承認いただいたものと認める。

(2) 大府市水防計画の改正について

事務局による資料説明

【質疑など】

なし

【会長】

本件について、ご承認にご異議無いようなので、協議事項（２）については、ご承認いただいたものと認めまる。

4 防災助言者あいさつ

防災対策を進めてきた中で能登半島地震が発生し、進めてきた防災対策がどのように機能しているかの確認をすることが非常に重要なポイントになる。

一つ目は、政府全体で動いている事業の中の、南海トラフ地震対策について、見直し検討が行われており、今年度末あるいは来年早々にも検討結果を公表する状況になっていたが、能登半島地震を受け、課題の洗い出しやチェックをしたうえで計画反映ということで、検討結果の公表は少し後ろ倒しになると聞いている。

二つ目は、中部圏・近畿圏直下地震対策の検討も同じく見直しの時期に来ているが、こちらも遅れている。政府の検討を待っているといつになるか分からないので、大府市の中で検討されていることをチェックする良い時期である。

三つ目は、地震対策で、今回の地震では耐震性の無い建物の被害が目立っており、改めて、耐震性の強化は必要であると考えている。高齢者の方から、「もう自分たちは高齢だから耐震工事はいい」という話があるが、今回の地震はたまたま正月に発生し、帰省してきた家族が亡くなる事態も見られており、改めて耐震性確保の重要性を周知していく必要がある。

火災についても多くのエリアが延焼したが、火を出さない対策が非常に重要になるため、感震ブレーカーの設置等、対策をしっかりとすることが必要である。また、風向きを知らせながら避難をしてもらう等、風に対する対策もポイントになる。

地盤の強度が十分でない場所の開発では、盛土の地盤が弱いということもあるため、ハザードマップを見ながら確認することも重要である。

今回の地震では、比較的小さいコミュニティを維持しながら、農業用ハウスで生活する等の工夫をされていた。この事が愛知県等の東海地方でできるかという点も必ずしもそうではなく、自立して生活できる状況になる必要がある。能登半島の範囲で日本中が支援を行っても、これほど復興に時間がかかり、また十分な支援ができていない。もし、南海トラフ地震だった場合、サポートしてくれる人たちが本当に来られるのかと考え、支援をベースに考えるのではなく、自立をベースに、どういうことができるのかを点検していくきっかけとすることが必要である。

災害関連死の関心が非常に高くなっており、亡くなるのは高齢者が多いと言われているが、医療が脆弱で医療体制が確保できない状況で何ができるのかな

ど、普段から健康な生活を送ることや、看護師、保健師のサポートを得ながら
自助・共助の検討をすることが良く、大府市の取組をさらに活かして体制を強
化していただきたい。

(閉会)